

令和 5 年 7 月 5 日現在

機関番号：84310

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13411

研究課題名（和文）春秋戦国時代青銅器の生産と流通に関する複合的研究

研究課題名（英文）A Multiple Study of Bronze Casting and Distribution in Eastern Zhou Period

研究代表者

山本 堯（Yamamoto, Takashi）

公益財団法人泉屋博古館・学芸課（本館）・学芸員

研究者番号：90821108

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：中国古代史上の一大画期である、春秋戦国時代の青銅器生産・流通の実態を明らかにするべく、まずは青銅器の紋様にあらわれた系統性に着目した型式学的分析により、青銅器の生産・流通の大きな画期が前5世紀後半～前4世紀前半にあることを明らかにした。さらに文字史料への分析も加えることで、そうした現象が当時における中央集権的国家体制の出現と密接に関連していた可能性を指摘した。また春秋戦国時代の青銅器の鑄造技術にあらわれた特徴を明らかにするために、鑄造実験をベースとした実証的見地から検討を加えた。その結果、春秋戦国時代の青銅器を特徴づける施紋技法と、銘文の製作技法について蓋然性の高い仮説を提起することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果により、従来、文献史学では様相不明とされてきた前5世紀から前4世紀にかけての時期が、春秋戦国時代の社会変化を捉えるうえできわめて重要な意義を有することが考古学的観点から明らかになった。また、これまで未解明とされてきた青銅器の施紋技法・銘文製作技法についても蓋然性の高い仮説を提示することができた。特に、後者に関しては漢字形成史を考えるうえでもきわめて重要な意義を有する発見といえる。

研究成果の概要（英文）：Eastern Zhou period, one of the major turning point of ancient Chinese society, saw a dynamic change of producing and distributing of bronze vessels. The author closely analysed characteristic motifs and patterns of Eastern Zhou bronze vessels to determine the change took place between BCE5c and BCE4c, which closely relates with the emergence of centralised polity in the Warring States Period. The author also discussed the characteristics of casting technology of Eastern Zhou bronzes from the view point of experimental archaeology. With the successful casting experiments, the author proposed new hypotheses of the casting methods of decoration and inscription of bronze vessels.

研究分野：中国考古学

キーワード：春秋戦国時代 青銅器 鑄造技法 金文 中央集権化 生産体制

## 1. 研究開始当初の背景

春秋戦国時代は中国古代史上の一大画期に位置づけられ、当該期に発生したさまざまな社会変化が、その後の秦漢帝国の出現の基礎をかたちづかったという意味において、きわめて重要な意義を有している。したがって、その社会変化の実態を明らかにすることは、単に中国古代史のみならず、古代東アジア世界における国家形成の問題を考えるうえでも、不可欠の課題といえる。

従来、春秋戦国時代を対象とした研究は、文献史学によるアプローチが大多数を占めていた。『史記』や『戦国策』、『左伝』といった伝世文献に加え、出土史料にもとづく実証的な歴史学研究が、同時代社会のさまざまな側面を解明してきたことについては、贅言を要しないのだが、そこには大きな課題も同時に見受けられる。戦国時代以降では、伝世文献に加えて新出土史料が比較的豊富に得られており、多角的なアプローチが可能となっている一方、春秋時代に関してはいまだ『左伝』が主要テキストの地位を占めており、両時代の間には大きな資料状況の差異が生じている。このことに起因して、春秋・戦国時代にまたがって発生する持続的な歴史現象が捉えがたくなっているのである。

こうした状況を打破していくうえでは、通時的分析に長けた考古学の手法がきわめて有効になってくるものと考えられる。すでに中国大陆では、春秋戦国時代青銅器の出土品は膨大な数に達し、通時的分析をおこなううえで十分な資料数が得られている。そうした資料群に対し、通時的分析を加えることで、有意な研究成果を得られるとの見通しを立てた。

## 2. 研究の目的

本研究では、春秋戦国時代における青銅器の生産と流通に関するプロセスに特に着目し、分析をおこなった。殷～西周時代においては、青銅器なかんずく「宗廟の常器」たる青銅彝器の生産と流通が、王朝の支配体制のうえできわめて重要な役割を果たしたことについては、夙に先学の指摘がある。祭政一致の古代王朝の支配体制が、春秋戦国時代においていかに変化していったのかを捉えるために、青銅彝器の生産と流通の動態をトレースすることが有効な手がかりになると考えられる。

## 3. 研究の方法

本研究では、以上の目的意識にもとづき、二通りのアプローチで分析をおこなった。第一は中国各地で出土する青銅彝器に対する考古学的な分析。これまで春秋戦国時代青銅器に対する考古学的分析が低調であったのは、ひとつに従来の型式学的な資料操作の方法論に問題があったことが挙げられる。本研究ではこうした問題点を整理しつつ、それに代わる分析方法を提示し、青銅彝器の編年体系を再構築した。その際、時期差を抽出するだけでなく、紋様表現にあらわれる製作系譜の異同に特に着目した。複雑な様相を呈する春秋戦国時代青銅器の紋様表現には、製作者の癖や指向性があらわれる可能性が高いことが予想される。これまでの編年研究で重視されてこなかった紋様から製作系譜を設定し、その時空間上での動態をトレースすることで、当時の生産と流通の様相を浮かび上がらせることをねらいとしている。さらに文字史料への分析も加え、青銅器の生産と流通の背景にある社会構造の変化について考察をおこなった。

第二は、青銅器の鑄造技術に関する実験考古学的分析。複雑繊細な青銅器の鑄造技術については、古くから研究がおこなわれ来たものの、未解明の点が数多く残されている。本研究では、そのなかでも金文の製作技法および春秋戦国時代青銅器の施紋技法をテーマとして、鑄造実験をベースとした実証的見地から、従来の説の再検討を加えた。

## 4. 研究成果

まず第一のアプローチと関連して、型式学的分析より、前5世紀後半から前4世紀前半にかけての時期が、青銅彝器の生産・流通体制の大きな画期であったことが明らかになった。これまで、当該期の重要性は文献史学の分野においても認識されてはいたが、資料が零細であるため、その具体的様相は不明とされてきたが、その重要性を考古学的観点からあらためて示す結果となった。また文字史料の分析をそこに加えることにより、こうした青銅彝器の生産・流通の変革が、中央集権的国家体制の出現とも密接に関連していた可能性を指摘した。こうした現象は、続く秦漢帝国の先蹤をなすものとして注目されてきたが、その濫觴が前5世紀後半～前4世紀前半にあることを示した点も、重ねて大きな意義があると考えられる。

第二のアプローチに関連した成果としては、これまで未解明とされてきた金文製作技法について、新たな仮説を提示したことが挙げられる。鑄造実験をベースとした実証的見地から、清朝の阮元によって唱えられた「泥漿法」の有効性を再評価し、埋け込み法と組み合わせた「泥漿プレート法」を新たな製作技法の仮説として提唱した。また、春秋戦国時代青銅器の施紋技法に関しては、鑄造実験および山西省侯馬市出土の鑄型資料に対する分析から、スタンプ状工具による押捺ではなく、原型をから起こした紋様プレートを外型に埋め込む技法が採られた可能性の高いことを論証した。

上記の研究成果によって、春秋戦国時代における青銅器生産・流通の様相の一端を、複合的アプローチから明らかにすることができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 山本堯	4. 巻 105-1
2. 論文標題 東周時代華中地域における青銅彝器生産の変革と画期	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 考古学雑誌	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本堯	4. 巻 81-3
2. 論文標題 楚国政権構造試論 考古資料よりみた政権基盤の変遷	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本堯	4. 巻 30
2. 論文標題 鑄物の技術と文字 殷周金文の鑄造法をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 書学書道史研究	6. 最初と最後の頁 1～23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11166/shogakushodoshi.2020.1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 山本堯、樋口陽介、内田純子、新郷英弘	4. 巻 13
2. 論文標題 殷周金文の製作と痕跡 実験考古学的視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 FUSUS	6. 最初と最後の頁 1～17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本堯	4. 巻 30
2. 論文標題 鋳物の技術と文字 殷周金文の鋳造法をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 書学書道史研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山本堯
2. 発表標題 殷周金文辨偽新考
3. 学会等名 中国出土資料学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本堯
2. 発表標題 殷周金文の復元鋳造
3. 学会等名 第30回書学書道史学会大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------